

耳公民館だより



第61号 令和6年9月



今年の夏は全国各地で風水害によって、農作物が甚大な被害を受けました。食卓への影響がすでに出始めていますが、まだ終わったわけではなく、台風や秋雨前線の動きが気になるところです。

中央小学校の米作り学習では、自作のかかしを田んぼの四隅に設置しました。今風のいでたちが何とも言えません。どうやら祈りが通じて稲刈りを迎えられたようです。

(中央小5年生の手作리카かし：河原市)

公民館でオニヤンマ作り (大人の部)



**まるで本物！
効果は抜群**



昨年度好評 ふたたび開催！

10月6日(日)

10:00～11:30

参加費:100円

申し込み〆切 10月2日(水)

オニヤンマはアブやブト、ハチなどの天敵です。つくりものでも効果は十分。薬剤を使わずに虫を遠ざけます。環境にやさしいすぐれものです。



いやしのひととき 大人のための絵本の時間

10月20日(日) 午前10:00～11:30

講師：絵本の達人・松井由起子さん



参加費100円 お申し込みは耳公民館まで

〆切:10月16日(水)

いろいろやります！ ろうかの写真展

これまで写生画、版画、写真などを1つのテーマで展示してきましたが、今回の写真展は提案があったこともあり、いくつかのテーマでお楽しみいただきます。ぜひご来館ください。

中央小の米作り

種もみから収穫、
春から秋の一連の
流れがわかる
記録写真



宇宙の写真

耳地区出身の愛好家が撮影した「すばる」や「アンドロメダ銀河」など数点



茅の輪くぐり

弥美神社で開催される
恒例の「夏越しの大祓え」
の中の一場面



館長のつぶやき

音

豊かな自然の中に生きる私たちは季節によって生き物が発する様々な音を味わえます。聞くと空腹を感じる夕方のカエルの合唱、どの種類かと気になるセミの声、心を落ち着かせてくれるコオロギやスズムシなどの羽音。

童謡「むしのこえ」では「ああおもしろいむしのこえ」と歌うように、静かな秋の夜にどこからともなく聞こえる虫の鳴き声は、日本人にとっては世代を越えて愛着のある安らぎをおぼえる音です。ところが、多くの外国人にとってはそれほどでもなく、欧米人には雑音にも聞こえるということです。音楽や文学につなげていくのは日本人特有の感覚なんですね。

音を題材に使いながらも、静けさの味わいを深く感じさせる俳句、松尾芭蕉の「古池やかわづ飛び込む水の音」はその典型です。

耳公民館にも色々な音があります。サークルの活動日には、熱心に話し合う声、ラジオ体操の曲、オカリナの演奏、ボッチャの熱戦の合間の爆笑、講座の講師と参加者のやりとりなど。小学校の下校時には子供たちの元気な声が窓ガラスを越えて届きます。

どれも心地よい音です。もつとにぎやかに、いつも何かが聞こえる公民館になればと思います。講座に参加されるのももちろん、ろうかの写真展にもお気軽にお越しください。公民館にかぎっては「しずかさや岩にしみいるせみの声」では困ります。